

飯盛物語 2



学校教育目標

「命をだいに 人をだいに 自然をだいに美しく」

～やる気(心) 思いやりの心 たくましい心の育成～

飯盛中テーマ「自立 創造 貢献」

R6年度の合言葉「日々前進！」

～昨日の自分よりもさらに一歩前へ！～

第15話 令和6年11月06日発行

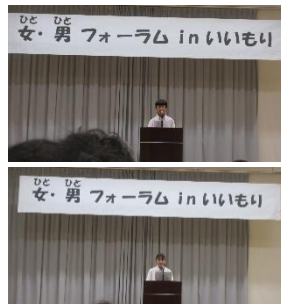
校長 池田英二 教頭 岳野高道

今回の飯盛物語2第15話は、本校の生徒が地域貢献のために出演させていただきました「女・男フォーラム in いいもり」と「第51回飯盛文化祭」の模様についてお知らせいたします。どうぞよろしくお願いたします。



地域に貢献 I 10月27日(日) 「女・男フォーラム in いいもり」

10月27日(日)に飯盛ふれあい会館で「女・男フォーラム in いいもり」がありました。本校からは音楽部と1年生の吉岡翼さんと池田ひかりさんが参加し、地域行事に貢献しました。音楽部は、オープニングで「小さな恋の歌」をエンディングで「世界に一つだけの花」を演奏し、会場を大いに盛り上げ、観客の皆さんに大きな拍手をいただきました。音楽部の保護者の皆様におかれましては、準備・後片付け等まで、大変ありがとうございました。また、今年度は、「私の考える男女平等」をテーマに中学生の意見発表もあり、吉岡翼さんと池田ひかりさんが自分の考えを参加された地域の皆様へしっかりと伝えることができました。男女平等社会の実現へ向けて、「男らしさ、女らしさという考えではなく、その人らしさを大切に！」を会場の皆さんと共有できた素晴らしいフォーラムでした。



本校ALTのファティマ先生も日本とアメリカの文化や伝統の違いについて講演をされました。

「男女平等な世界をつくるために」 1年2組 吉岡 翼

みなさんは、男女差別についてどう思いますか？最近よく耳にする男女差別について、どうしたら男女平等の世界を創っていけるのか、自分なりの意見を三つ話したいと思います。一つ目は、男女の偏見をなくすことです。男性はズボン、女性はスカートという印象を今でも多くの方がもっていると思います。しかし、男性がスカートを履いていても、女性がズボンを履いていても、何も悪いことをしていないのです。今では、女性が髪をバツサリと切ったショートヘアにしていたり、男性がかわいいネイルをしていたりする光景を目にすることが多くなってきました。このまま、男女平等の世界をつかっていくために、少しでも今ある多くの偏見をなくしていくことが大切です。二つ目は、男女の交流を増やすことです。僕は、現在大村市のサッカークラブに所属しています。試合や練習をするときは、男子だけで行うことはなく、同じチームに所属している女子とも、一緒に行いますが、何の支障もなく、楽しくプレーできています。他にも、僕の学年では、男女の壁がなく、みんなが仲良しです。このように、交流を増やすことで、お互いの壁をなくすことができると思います。三つ目は、相手を知ることです。有名な詩人である金子みすずさんの『みんなちがってみんないい』という言葉にもあるように、男、女として見るのではなく、一人の人間として見ることです。人々が男は男、女は女として見るのではなく、一人の人間として見るのです。人々が男は男、女は女として見てしまっているため、差別が起きやすくなると思います。男女関係なく、相手のことを知り、理解していきたいです。現在、飯盛中学校では男女混合の出席番号になったり、僕たちの代から制服が変わったりしました。時代と共に良い方向に進化していると思います。最後に、年号が増えていくにつれて、世界は大きく変化しています。この変化をそのまま良い方向にもっていくには、一人一人の前向きな気持ちや行動が大切です。一人一人が差別をなくしていくという強い気持ちを持ち、行動に移すことで、男女平等な世界になると思います。そのために、まず自分が差別をしない、差別をしているところを見たら、差別をしないよう注意し、差別をなくします。



『私が考える男女平等』 1年2組 池田ひかり



みなさんは、男女平等という言葉を知っていますか。私は、男女平等に対する知識があまりなかったので、インターネットで調べたり友達や家族に聞いたりしてみました。その中で、男女平等とは、「男らしさ、女らしさという考え方ではなく、その人らしさを大切にしたい考え方」であるという考えに行きつきました。それは、例えば、「男性は仕事、女性は家庭、という昔ながらの決められた価値観で生きるのではなく、自分に合う職業につくこと」などが挙げられます。最近、日本でも、男女平等という言葉をよく聞くようになりましたが、世界の国々と比べると、遅れをとっているところも多いと感じます。実際、私の周りでも、未だに男女の差や、男だから、女だからと性別による決めつけがあるように感じることがあります。しかし、少しずつ変化はしています。例えば、ランドセルの色です。以前は、ランドセルの色を、男の子は黒、女の子は赤、という暗黙の了解がありました。今では、ランドセルにはたくさん色があり、性別に関係なく、自分の好きな色を選ぶことができます。私が去年まで使っていたのは、赤とピンクのランドセルでした。このことを学校の先生に話すと、「先生の時は、女子は赤のランドセルが当たり前だったから、特に疑問もなかったけれど、好きな色が選べるのはうらやましい。」とおっしゃっていました。ランドセル以外にも、たくさん性別で決められており、長年、その決めつけが、人々のイメージとして根強く残っていたのだと思います。今、日本でも、性別に関係なく、個人の自由によって選択できる社会になってきたことがとても嬉しいです。私は、男女平等について考えていくにつれ、どうして男女自由に選択できないことがあるのだろうと思いました。性別によって選択の自由がないことを嫌がる人たちもいるからです。例えば、制服も、女子はスカートとされていて、それが嫌な人もいます。どうして、その人たちの気持ちも考えられないのか、と疑問に思いました。そして、自由選択が主流になったのが、どうして現代になってやっとなのかということも気になりました。それについて調べてみると、世界共通の目標として2016年に提示されたSDGsの中に男女平等に関する項目が入っていることが分かりました。第5目標の、ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び女児のエンパワーメントを行うと提示されています。この目標のおかげで、私たちの生活の中にも、男女平等が目に見えてわかる活動が増えてきたように感じます。例えば、制服です。私の友達は、スカートを履くことが嫌で、小学生の頃は、いつもズボン履いていました。しかし、中学生になると、制服があり、女子はスカートを履かないといけません。そのことをとても嫌がり、それだけで学校に行きたくないと言っていました。「スカートを履くのが嫌」という理由で、悩んだり落ち込んだりする人がいることをもっと多くの人々が知って理解し、対応を変えてほしいと思います。そのような中、去年見た新聞で、嬉しい記事を目にしました。「全国各地の中学校で、女子はスカートまたはズボンが選べるようになる。」という内容でした。私は、これでスカートを履くことで悩んでいた人たちも救われると思いました。私の友達以外にも、性別のイメージによる決めつけで悩んでいる人はたくさんいます。制服に限らず、様々な選択の自由が全国に広がってほしいです。男女平等について調べたり、考えたりする中で気づいた「男女平等とは、その人らしさを大切にしたい考え方である」ということを、いつも心に留めて、何かの選択をする時にはその基準を大切にしたいと思います。私は、女らしさ、男らしさではなく、自分らしい選択をします。男女平等の世の中を創るために、中学生の私にできることは、世間に男女平等に関するアピールをすることです。現在、SNSは人々の生活に深く浸透しています。SNSを利用することで、広く情報を伝えることができ、男女平等に関する意見を発信したり、意見交換をしたりすることができると思います。人々がもっと多様な考えがあることを知り、平等であることの大切さについて考えるきっかけをつくりたいです。自分にできることは、小さなことですが、一人一人が行動することで何かが変わってくるはずだと思います。これから、日本も世界の国々の対策を取り入れながら、どんどん男女平等化への取組が進んでいくと思います。一日でも早く、男女平等を達成し、公平な世の中を創るために、私は自分にできることに取り組んでいきます。

地域に貢献Ⅱ 11月3日(日) 文化の日「第51回飯盛文化祭」

先日実施された飯盛文化祭を参観させていただきました。午前中には、常光保育園、珠光保育園、ふじ幼稚園の園児の皆さんのかわいらしい踊り、劇、鼓笛を見せていただきました。また、飯盛西小学校3・4年生の皆さんには、誇りある郷土の民俗芸能である「田結浮立 掛け打ち踊り」を見せていただき、とても感動しました。会場からは「もってこーい！コール」がかかっていたので、飯盛東小学校の4年生の皆さんには、心のこもった合唱と合奏を見せていただきました。

そして午前中の最後には、本校音楽部9名の皆さんの演奏がありました。演奏曲は、「世界に一つだけの花」「小さな恋のうた」「宇宙戦艦ヤマト」を始め、5曲の演奏がありました。音楽部員は、音楽部の指導者である船津愛莉先生の指導のもと日々練習に励んでいます。当日も心のこもった素晴らしい演奏を聴かせてもらい感動しました。ありがとうございました。



ありがとうございました。